



TITLE:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 25

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 25. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1954, 25: 31-35

ISSUE DATE:

1954-10-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186854>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興會  
水族館月報

No. 25

1954. 9月 (10月3日)

録 事

9月は、例年の如く、上旬には観光客が引き上げるので、急に淋れるが、下旬にいたって、ぽつぽつ修学旅行の団体がふえはじめる。

長い夏の実習期間中、実験所の教育活動に、一役働いた水族館も、5月に最後の関西学院大学の实習を終えたので、10日夜には、実験所と合同で、全取食の慰労会を催した。

それ以後は、台風の連続で、13日には、12号台風が、16日には、14号台風が、26日には最もひどかったと思われる15号台風が、附近を通過した。毎回風や波は相当にはげしかったが、今年は水族館と博物館の南側窓に、爾前に防風用の雨戸を新調して、その都度とりつけるなど、万全の処置を講じたので被害さくいとめることができたのは、幸といわねはならない。昨年春、完成した南側海岸の防波堤は数度の台風にもかかわらず、びくともしない雄姿であることは、何より頼もしい。この分では、番所山道を海岸に設けても、台風の一ど流失するおそれはずあるまいと思われた。

台風によって、波は高く、海水は濁らされたが、幸に雨量が少なかったため、水槽の魚も特に台風のため死んだと思われることはなかった。

業 務 概 況

◎ 9月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	2620	29173	4018	58694	6638	87867
小 人	76	3304	23	1743	99	5047
団 体	5958	34749			5958	34749
合 計	8654	67226	4041	60437	12695	127663
無料入場者					46	895

◎ 9月の収入	(累 計)
観覧券売上金 .....	213,373..... 2,318,305
雑 収 入 .....	155..... 9669
8月よりの繰越1 .....	480,315
計	693,843

◎ 9月の支出  
一般経費

費 目 別	金 額	累 計	備 考
人件費	51,394	3,590,69	
光熱費	13,457	56,297	
消耗品費	6,580	24,845	
備品費	1,600	20,780	
修理費	4,932	39,440	
資料費	13,025	98,085	
厚生費	1,580	10,750	
借入材料費	—	—	
諸税公課	200	3,651	
雑 費	100	3,440	
通信運搬費	1,500	9,194	
研究費	—	12,000	
旅 費	220	440	
合 計	94,588	637,991	

水族館改善費

項 目	金 額	累 計	備 考
増設飼育槽	—	91,500	
公園道路整備	—	23,930	
雨水排水設備	10,090	70,090	水族館 34,720 増設飼育槽 35,370
通用起重機	1,900	1,900	
雨水入	12,539	12,539	
合 計	84,529	199,959	

実験所費

費 目 別	金 額	累 計	備 考
印刷費	—	350,000	
備品費	32,200	178,206	World. Dem. Expts. Res. Series: plankton Bind 1-V. 1 Set.
設備修理費	—	400	
特別費	—	9,720	
合 計	32,200	538,370	

# 博物館費

費目別	金額	累計	備考
人件費	3,950	26,235	
消耗品費	—	170	
修理費	—	6,330	
備品費	6,000	22,665	標本箱
合計	9,950	55,400	

# 積立金

費目別	金額	引出高	現在高	備考
バス・タクシー賃金	9100		132,800	
賞与	9,600		79,634	
厚生	1,500	7,000	54,352	慰労金費用
災害時予備金	—25		630,646	貸金返済 2,100 入
会議費積立金	—		20,865	
積立基金	35,560		386,370	
合計	55,345	7,000	1,264,667	

# 支出合計

		(累計)
一般経費	94,588	637,991
水族館改善費	84,529	199,759
実験所費	32,200	538,370
博物館費	9,950	55,400
積立金	55,345	557,812
計	276,612	1,989,532

9月末現在高 417,231

支出合計 1,989,532

# ◎ 前年度との比較

	1953	1954	増減
入場者数	7618	12,695	+ 5,077
売上金	136,460	213,373	+ 76,913
支出金	155,310	276,612	+ 121,302

## 水族館記事

- ◎ 9月1日、江住より甲長1尺余りのタイマイが1匹入荷した。これを捕えた漁師の話によると、海底に妙なお盆のようなものがうすくまっているのを発見し、自ら潜って手掴みした由。甲羅の色は今までのものと較べ、もっと鮮やかで美しい。なお、古顔のタイマイも頭を咬まれて夏中元気がなかったが(本誌No. 22, p. 16 参照)、新来の仲間がくると急に恢復して、太郎と次郎が仲好くNo. 32の水槽中で餌をついばんでいる。
- ◎ 屋外プールにあるアカウミガメの1匹が7日に死亡。
- ◎ 今年生れのアカウミガメの赤ん坊が9日に7匹捕えられ、現在2匹残っている。7月18日に南の浜辺にウミガメの産卵した個所を丁度2ヶ月目に掘って採ってみたところ、惜しくもすでに孵化した後の抜け殻ばかり残っていた。
- ◎ No. 10の水槽中のノコギリガザミの雌が抱卵しているのが観察された。なおこのノコギリガザミには甲や肢に明瞭な網目模様があり従来 Scylla serrata (Forsk.) と混同視されていたが、これは別種の S. oceanica (Dana) アミメノコギリガザミ (新称) と称すべきものである。
- ◎ イトヒキアジが18日2尾入ったが、惜しくもまもなく相次いで死んだ。
- ◎ 20日には全体淡紅色で尾脚外肢の紫色をした美しいハナシヤコ(子)が1匹入った。シヤコを入れることは本館としては珍しい。(No. 3)
- ◎ 23日には約190枚の比較的小形のニシキエビが入った。(No. 26)

## 資 料

### ◎ 9月の気象

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(14)	3	5	6
気温(℃)	$\frac{24.0-29.0}{26.6}$	$\frac{23.0-28.0}{26.4}$	$\frac{21.6-27.5}{24.6}$
水温(℃)	$\frac{26.0-27.3}{26.7}$	$\frac{24.5-27.2}{26.2}$	$\frac{23.3-26.6}{25.0}$
比重	$\frac{18.0-21.2}{20.6}$	$\frac{18.8-20.2}{19.8}$	$\frac{18.5-22.0}{20.1}$

但し { 気温は南水槽室  
水温 } はNo. 25水槽で10時に測定  
比重 }

( 附 記 )

前号所載のページ数は、印刷の手違いにより、誤りましたので、  
下記の如くお改めください。

24 ~ 28 (誤)      25 ~ 29 (正)

昭和29年10月3日発行

( No. 25 )

編集兼  
発行人

内 海 富 士 大

発行所

瀬戸湾海実験所振興会

和歌山縣 白浜町

瀬戸湾海実験所 内

( 電話・白浜温泉 515 )